

しなののうた

虫集き入り混じて鳴く蝉の声
移りゆく季にものを思えり



杉田小百合

しなののうた

本を閉じ外を見上げれば夕月夜

塵積むわれの心開す

杉田小百合



しなののうた

初あきの夜にひんやり秋雨が残暑覚えず
猛暑過ぎたり

l.MI

杉田小百合

しなののうた

透きとおる風に心が洗われて見えざるものに背を押されゆく

杉田小百合



しなののうた

はつ秋の飯綱おろしの涼風はわが頬をなで音なく去りぬ



杉田小百合